

8月6・7・8日

仙台七夕まつり 開催

今年も仙台七夕まつりが8月6日(月)から8日(水)の3日間開催されました。4年ぶりの平日開催となった今年は、202万6000人の人出を記録。3日間とも、断続的に雨が降るあいにくの天候でしたが、仙台商人の心意気で華やかな七夕飾りが、仙台の街を鮮やかに彩りました。



雨の合間を縫って笹飾りが掲出された一番町四丁目商店街(東一番通り商店街・金賞)。



古き良き七夕の懐かしさを感じられる中にもアイデアあふれる飾りが並ぶ原町東部商工会(仙台駅前周辺宮城野区地区・金賞)。



色彩豊かな飾りが通りを彩る連坊商工会(若林区太白区地区・金賞)。



地域が一つになって昔ながらの七夕の良さを受け継いでいる根白石商店会(北地区・金賞)。



8万8000羽が飾られた市内小・中学校の「児童生徒による七夕飾り」は、今年も記念写真を撮る人々であふれた(藤崎百貨店前)。



仕掛け物審査では「今庄青果本店(仙台朝市商店街)」が金賞(上)。原町本通(中)と八幡町(下)では今年初めて仕掛け物を設置。



フォーラス前の仕掛け物には、フィギュアスケートの羽生選手の人形も登場。



国分町には、初めて26本の吹き流しが飾られた。



七夕飾りが重なり合い、トンネルのように通りを覆う上杉中央商店会(青葉区周辺地区・金賞)。



細やかに創意工夫を凝らした飾りが並んだクリスロード商店街(中央通り商店街・金賞)。

おまつり広場



市民広場の「仙台七夕おまつり広場」では、ミニ七夕飾り作り体験、短冊記入、参加型の盆踊りなどを開催。ステージ上では「七夕すずめ踊り」が初披露された。また、今年は新たに中心部4カ所を巡るスタンプラリーを実施し、多くの観光客が各ポイントを周遊し楽しんだ。



広場内では、4月に仙台-出雲線が就航したフジドリームエアラインズ(上)、昨年7月に神戸線を再開したスカイマーク(中)、北海道観光振興機構(下)が、交流拡大に向け、魅力をPRする特別ブースを出展。



3日間とも雨なのは、七夕まつりの長い歴史の中でも珍しい出来事。7日は最高気温も19度まで下がるなど猛暑も一転し、七夕飾りは秋風を思わせる涼しい風に揺れた。

雨



仙台七夕おもてなし隊は今年も観光客の七夕見物を積極的にお手伝い。



観光案内所の通訳案内のほか、お祭りを通して地域活性化を図る組織「オマツリジャパン」と連携し、インバウンド対応を強化。七夕期間中は大勢の外国人観光客の姿が見られた。



仙台駅前の歓迎ボードが観光客をお出迎え。記念撮影スポットとしても人気に。



臨時観光案内所では今年も高校生ボランティアが大活躍。



小雨が降る中、周辺部バスツアーでは、参加者は地域の情緒あふれる七夕飾りを楽しんだ(根白石・7日)。



日本代表の活躍で盛り上がったサッカーW杯をテーマにした七夕飾りも登場(荒町商店街振興組合)。



政宗公の霊廟が幻想的に浮かび上がる瑞鳳殿七夕ナイトは、今年も多くの観光客でにぎわった。



時折雨が降る中、1万6000発の花火が打ち上げられた仙台七夕花火祭(8月5日)。



初日に「七夕飾り付け審査」を実施し、おまつり広場のステージで表彰式を開催。